

平成 3 1 年度学校教育教員養成課程

(前期日程)

小論文 (共通)

表 紙

[解答上の注意]

1. 試験開始後、表紙 1 枚、問題用紙 3 枚、解答用紙表紙 1 枚、解答用紙 3 枚、下書き用紙 1 枚があるか、確認しなさい。
もし、欠落のある場合には挙手して、そのむねを申し出なさい。
2. 解答用紙表紙、すべての解答用紙の受験番号欄に、受験番号を忘れずに記入しなさい。
3. **問題 1** は必答問題です。必ず解答しなさい。
4. **問題 2** は選択問題です。**問題 2 の A**、**問題 2 の B** のいずれか一つを選択して解答しなさい。
5. 解答用紙表紙にある受験問題選択表の選択問題の空欄のうち、選択した問題の空欄に「○」印、選択しない問題の空欄に「×」印を記入しなさい。
6. 解答は、それぞれの問題ごとに指定された解答用紙に、指定された文字数で、横書きで記入しなさい。句読点も 1 字に数えます。
7. 解答用紙の太線  部分には、何も記入しないようにしなさい。
8. 選択しなかった問題の解答用紙には、全面に「×」印を書きなさい。
9. 試験終了後、解答用紙表紙、解答用紙 3 枚を回収します。(全 4 枚)
表紙 1 枚、問題用紙 3 枚、下書き用紙 1 枚は各自持ち帰りなさい。(全 5 枚)

平成31年度学校教育教員養成課程

(前期日程)

小論文 (共通)

問題用紙 全3枚 (その1)

問題 1

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

去年、ある国立大学で集中講義をしたときに、その大学の新聞部の学生からインタビューを受けたことがあります。その学生が発した最初の質問が「現代思想を学ぶことの意味は何ですか?」というものでした。

その問いを発した学生は、もし僕がこの問いに説得力のある回答をしたらそれを学んでもよいが、僕の答えに納得できなければ「学ばない」と宣言しているわけです。つまり、ある学術分野が学ぶに値するか否かの決定権は自分に属しているということを、問いを通じて表明しているのです。僕はこの傲慢さと無知にほとんど感動しました。

二十歳の学生の手持ちの価値の度量衡をもってしては計量できないものが世の中には無限に存在します。彼は^{たと}えて言えば、愛用の三十センチの「ものさし」で世の中のすべてのものを測ろうとしている子どもに似ています。その「ものさし」では測れないもの、例えば重さとか光量とか弾力といったことの意味を「ものさし」しか持たず、それだけで世界のすべてが計量できると信じている子どもにどうやって教えることができるでしょう。

「何のために勉強するのか? この知識は何の役に立つのか?」という問いを、教育者もメディアも、批評性のある問いだと思い込んでいます。現に、子どもからそういう問いをいきなりつけられると、多く人は絶句してしまう。教師を絶句させるほどラディカルでクリティカルな問いなんだ、これはある種の知性のあかしなのだ子どもたちは思い込んでいます。そして、あらゆる機会に「それが何の役に立つんですか?」と問いかけ、満足のゆく答えが得られなければ、自信たっぷりに打ち棄ててしまう。しかし、この切れ味のよさそのものが子どもたちの成長を妨げているということは、当の子どもたち自身には決して自覚されません。

「何の役に立つのか?」という問いを立てる人は、ことの有用無用についてのその人自身の価値観の正しさをすでに自明の前提にしています。有用であると「私」が決定したものは有用であり、無用であると「私」が決定したものは無用である。たしかに歯切れはいい。では、「私」が採用している有用性の判定の正しさは誰が担保してくれるのでしょうか?

(内田樹『下流志向』講談社文庫、2009年による。原文は縦書き。表記を一部変更した。)

問1 筆者は、若者や子どもが「何のために勉強するのか? この知識は何の役に立つのか?」という問いを発することに対して問題を投げかけています。筆者がこれを問題だと考えている理由を200字以内で要約しなさい。

問2 この筆者の主張について、あなたの考えを400字以内で記述しなさい。

平成31年度学校教育教員養成課程

(前期日程)

小論文 (共通)

問題用紙 全3枚 (その2)

問題2のA

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

「他人のために働く」「状況を背負い込む」というと、不安に思う人もいることでしょう。そんなことをしては、自分の人生ではなくなるのではないか。会社の犠牲、家庭の犠牲になってしまうのではないか。割を食うのではないか、報われないのではないか。たしかに、そういう危険性があります。

ここで重要なのは、自分がどこまで飲み込むことができるのかを知っておくことです。つまり、自分の「胃袋」の強さを知っておかなくてははいけません。

この程度までなら消化できるが、これ以上になると無理だ。その大きさを意識しておくのです。

食べられればとても体にいいものであっても、胃袋がそれに耐えられなければ、かえって体調を崩してしまいます。たとえ不老長寿になれるような食べ物でも、胃袋よりも大きければ、害になります。

仕事にしても、身の丈にまったく釣り合わないような大きなものにまで手をつけると、結局は失敗してしまいます。それだけではなく、そのことがトラウマになって、人生を長い間無駄にしてしまうこともあるかもしれません。

特に若い人は、そのあたりの加減がわからないので失敗するかもしれません。だから、自分の「胃袋」の強さを知る必要があるのです。

では、それを知るためにはどうすればいいのか。やはり、絶えず挑戦をしていくしかないのです。あまりに安全策を採り続けていると、「胃袋」の本当の強さもわからないし、より強くすることもできません。

運動選手が体を鍛える際のことをイメージすればわかりやすいでしょう。あまりに筋肉に負担をかけ過ぎては体が壊れてしまいますし、楽をしすぎては成長しません。

常に他人とかかわり、状況を背負うということをしているうちに、なんとなく自分の「胃袋」の強さが見えてくるのです。

目の前に問題が発生し、何らかの壁に当たってしまったときに、そこから逃げてしまうほうが、効率的に思えるかもしれません。実際に、そのときのことだけを考えれば、そのほうが「得」のようにも見えます。ところが、そうやって回避しても、結局はまたその手の問題にぶつかって、立ち往生してしまうものなのです。

(中 略)

どの程度の負担ならば「胃袋」が無事なのか、飲み込む前に明確にわかるわけではありません。その意味では、運に左右されるところもあるし、賭けになってしまう部分もあるでしょう。

なにかにぶつかり、迷い、挑戦し、失敗し、ということを繰り返すことになります。

しかし、そうやって自分で育ててきた感覚のことを、「自信」というのです。

(養老孟司『「自分」の壁』新潮社、2014年による。一部省略。原文は縦書き。表記を一部変更した。)

問1 筆者は「自信」はどのようにして育まれると述べていますか。100字以内で説明しなさい。

問2 筆者の考えを踏まえて、筆者の述べる「自信」を育むためにはどのようにしていったらよいとあなたは考えますか。あなたの考えを根拠を明確にして400字以内で述べなさい。

平成31年度学校教育教員養成課程

(前期日程)

小論文 (共通)

問題用紙 全3枚 (その3)

問題2のB

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

同じ話だけれど、道徳の教材でもうひとつ気になるのは、やたらと友情の価値を押しつけるところだ。

いじめの問題があって、それをなんとかしようということなんだろうが、浅はかな考えだ。「友だちがいると楽しい」とか「友だちに助けられた話」とか「友だちがいるとこんないいことがある」とか、例によっていろんな友だちの効能が道徳の教材には書いてある。

まず、それが打算だろう。ほんとうに友だちがいる奴が書いたのか。

友だちを助けるのは、いつか自分が助けてもらうためではない。友だちが好きだから、助けるだけのことだ。友だちを助けることで、自分が不利益をこうむったとしても、それでも助ける。それがほんとうの友だちってものだ。

『走れメロス』は王様が改心したからいいようなもので、もし王様がもっと血も涙もない奴だったら、下手すると二人とも殺されていただろう。

友だちがいてよかったなっていうのはあとから思う話であって、友だちなんてものは何かの目的のために作るものではない。

だいたい、役に立つからって友だちを作るような奴と、誰が本気で友だちになりたいだろうか。そうでもしなきゃ、今の子どもはなかなか友だちを作ろうとしないのか。

友だちなんて、無理して作らなくたっていい。

友だちが一人もいなくたって、幸せに生きている奴はいくらでもいる。

ところが道徳の本を読んでいると、友だちがいなくて幸福にはなれないような気分になる。友だちを作れない人間は、まるで問題があるかのようだ。

そういう教育をしているから、友だちを作ることが強迫観念になって、なんとか仲間はずれにならないように涙ぐましい努力をする子どもが出てくる。子どものイジメが増えた原因も、案外そんなところにある気がする。

大学の学食で、一人で飯を喰っているところを見られたくないばかりに、トイレでモノを喰う学生がいるなんてことが話題になった。それもそういう道徳教育の延長にあるんじゃないか。

道徳の教育で教えるべきなのは、むしろ無理して友だちなんて作らなくても、人は十分に幸せに生きていけるということだ。

恋人がそうであるように、友だちは誰かに強制されて作るものじゃない。

それとも、少子化で結婚するカップルがもっと減ったら、道徳の授業で、「恋人はいいもんだ」なんて教えることになるのだろうか。

(北野武『新しい道徳』幻冬舎、2015年による。原文は縦書き。表記を一部変更した。)

問1 道徳の教材・教育について、筆者の考えを100字以内でまとめなさい。

問2 筆者の考えを踏まえた上で、友だちの存在と幸せについて、あなたの考えを具体例を交えて400字以内で述べなさい。